

# 社内資料 【保育目標と実践の評価】研修

～食育から始まる、ほほえみにあふれる保育園～

全ての子どもに満ち足りた時間を♪



## 目次

1. 当社基本保育目標概論
2. 各園保育目標概論
3. 保育実践の評価（Libro）
4. 当社基本保育目標・概念図 1.2
5. 保育プロセス概論
6. 保育プロセスの評価（Luce）

添付資料 1.保育目標設定報告書

添付資料 2. Luce(「保育プロセスの質」評価スケール)

添付資料 3.全体概念図



## 【当社基本保育目標概論 1：「食育・体育」（＋睡眠教育）】

当社による保育目標設定の第一歩は、乳幼児初期から入所する児童と「安定的な愛着を形成」し、母子等を含めた「健全な生活習慣の形成」を促すことである。

生活習慣は主に生活三要因、すなわち「食事・運動・睡眠」から成る。子ども達が園でよく食べ、よく動く保育目標を設定し、夜間に質の高い睡眠を適切な時間確保する重要性を保護者に伝え支援する。

当社では世界的に夜型化する生活習慣を食育から健全化することを重視し、児童が「健康な心と体」で幸せを享受する基礎としての食育、体育ならびに睡眠教育を全園の基本保育目標の土台とする。そのため当社社員には現代における児童の健康福祉上の最大の課題である生活習慣改善への理解を深め、高い専門性とチームワークのもとに食育・体育双方の保育目標を適切に設定し、達成する姿勢が求められる。

保育行政の制度設計上、幼稚園教育に唯一勝る設備と給付は、保育所における給食施設である。これを児童のために最大限活用することが保育ならびに保護者支援のスタートとなる。

## 【当社基本保育目標概論 2：知育＝自身との思索】

食育、体育に関する保育目標を設定、達成することを実践すると同時に、知育目標を設定し、食育、体育を土台として発展的に実践する。当社では知育を自身や自然科学への思索をより深めるための知識や考え方の習得と捉える。

## 【当社基本保育目標概論 3：徳育＝他者との思索】

食育・体育・知育に関する保育目標を設定、達成することを実践すると同時に、徳育目標を設定し、食育、体育、ならびに知育を土台として発展的に実践する。当社では徳育を他者との関りに関する思索をより深めるための知識や考え方の習得と捉える。

当社の食育・体育・知育・徳育目標は、新保育所保育指針で定める「10の姿」を概括化したものであり、当社では徳育の集大成として、5歳児終期にSDGsへの理解を目標とし、より広い視点でチームワークを捉えること、またこれを意識した自分らしさと言語への思索を深めることを最終的な保育目標とする。

## 【各園保育目標概論：具体的保育目標の設定と報告】

食育から、体育、知育、徳育、SDGs（ESD：コラムにて後述）への当社基本保育目標の発展性を理解した後、各園は管理者監督のもと、個別の具体的保育目標を当社基本保育目標の上に設定し、本部に報告する。また、個別に定めた保育目標の詳細に対する達成状況の評価は、別途本部が指定した日程にて報告を行う。【添付資料 1.保育目標設定報告書】

## 【保育実践の評価：各園保育目標・成果・環境（手順）の記録】

各園保育目標と達成状況の評価は、園が提出し、本部の承認を得た保育成果・環境設定（手順）集 Libro のストック数（当社 HP/社内共有より提出可能）とともに、Luce【添付資料 2】（次項詳述）による保育プロセスに関する自己評価を併せて総合的に評価する。Libro は Tezoro(宝)として園に蓄積され、全園に共有される。

### ～コラム 1：当社基本保育目標と 10 の姿との関連～

当社基本保育目標を 10 の姿との関連で考えると以下のように整理することができる。

■食育・体育目標・・・「健康な心と体」

■知育目標・・・「自立心」、「思考力の芽生え」、「数量や図形、標識や文字などへの関心、感 覚」、「豊かな感性と表現」

■徳育目標・・・「自然との関り・生命尊重」、「協同性」、「道徳性、規範意識の芽生え」、「社会生活との関り」、「言葉による伝え合い」

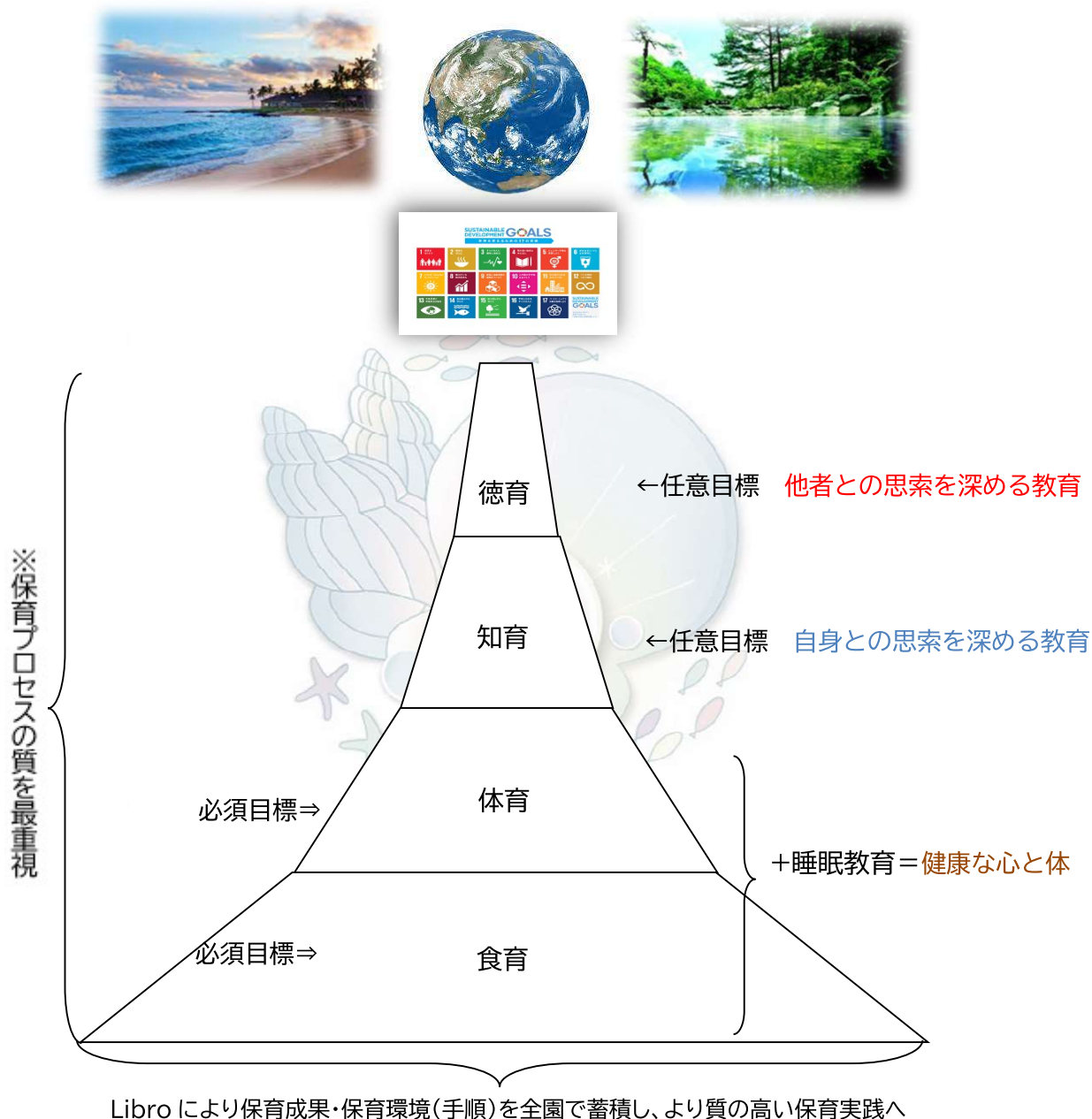
これら幼児期終期までに望まれる 10 の姿は、必ず達成すべきものとしてではなく、望ましい姿として指標とされている。当社ではこれらを直接的な保育目標ではなく、結果として得られる姿として捉え、各園独自の保育目標設定と質の高い保育プロセスを重視する。

OECD 加盟国の調査（2018 年・9 か国調査）で、我が国は保育のリソース（物的資源：保育用品、人的資源：保育士）が最低水準であることが明らかになっている。発展途上国とそれほど相違ないとも言える保育行政予算下で、チームで設定した保育目標とこれを実現するための質の高い保育プロセスの重要性を一人ひとりが理解して取り組むことが、新保育所保育指針の目標とする 10 の姿を実現する唯一の道である。

児童の健全育成は私たち一人ひとりのチームワーク意識にかかっている。

【当社基本保育目標概論・概念図 1 (保育目標から見た概念図)】

より広い視点でチームワークを捉える教育 (自然環境保護・人権教育)



自身との思索を深める教育 (知育：認知的な発達教育) の効果 (10の姿から)

「自立心」、「思考力の芽生え」、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」、「豊かな感性と表現」

他者との思索を深める教育 (徳育：社会・情緒的な発達教育) の効果 (10の姿から)

「自然との関り・生命尊重」、「協同性」、「道徳性、規範意識の芽生え」、「社会生活との関り」、「言葉による伝えあい」

【当社基本保育目標概論・概念図 2 (児童の発育から見た概念図)】



## ～コラム 2：全世界で同時多発的に始まっている「ESD」と理想の地～

地球環境は危殆に瀕している。温暖化等の加速によって人類の健康等が脅かされる将来、これらの課題に深い思索と知識を持って果敢に立ち向かうのは誰か。それは今まさに乳幼児期を過ごしている目の前の子ども達である。

ESD (Education for Sustainable Development) とは、持続可能な社会 (開発) のための教育である。つまり、地球環境等によるしくないことは何であって、私たちは何をできるのかを教育することだ。これはいつの時期から始めるべきか。もっとも適切な開始時期は「乳幼児期」。これが世界の答えである。今、全世界的に乳幼児期から ESD を始める機運が高まっている。

理由は何であろうか、そのヒントは「言葉と自分らしさ」にある。幼児期には言葉のもととなる物事へのイメージを獲得する時期だ。このイメージに地球規模のチームワークが色付けされ、さらに言葉は自分らしさとなる。言葉の概念の深い理解は思春期以降に及ばないが、自我が確立し、性の衝動等が加わる時期以降に、自分らしさとして ESD は重視されづらい。

言葉を習得する初期段階から自分らしさに国際的に通用するセンスを携える教育を行うこと。この教材として当社では国連が掲げる SDGs を掲げ、5 歳児終期にいくつかのテーマを取り上げてディスカッションを行う。当社ではこのような教育目標は先進国で教育者を務める者の責務であると考える。

当社の保育理念を支える 2 つの概念と、これらの位置関係の要点は、スタートを生活習慣改善 (食育・体育・睡眠教育) とし、ゴールを自然環境保護教育 (ESD) としている点である。これらは資本主義経済の行き過ぎに教育的に介入する行為であり、健康な心と体を持ち、これを維持する自然環境の中で、人と丁寧な関りを持つことこそが幸せの本質であるという価値観に拠っている。

これらの価値観が文化として浸透し、豊かな自然を有する教育的参考とすべき地はどこであろうか。そのひとつの答えとして、アメリカ合衆国ハワイ州が挙げられる。ハワイ王国で唯一の女王 (第 8 代・最後の王) リリウオカラニは以下のように語っている。

*「アロハとは語られざるものを知り、見えざるものを見、不可知なものを知ることです」*

資本主義体制が人類史上最も幸福な社会制度として運用されている中で、私たちが向かう先に限界や矛盾が見えたとき、彼女の言葉は私たちに幸せの本質をいつも思い出させてくれるかもしれない。

## 【保育プロセス概論 1：保育プロセス自体の教育的価値】

「保育プロセス（児童との丁寧な接し方）」が保育目標と大きく異なる点は、これらが保育者と児童との関係性において多種多様である点である。また、保育目標を達成できるかどうかは児童の発育の程度等に依存する側面が高いものの、保育手法はこれ自体に「児童との関りにおける専門性の高低」が見て取れる。当社社員に自己覚知が必要な観点は、一人ひとりが（保育目標のみならず）保育手法（保育プロセス）を、実践の中で学び続け、向上させ続ける必要性である。

保育者が保育手法や環境設定を子どもと「ともに考え、深め続けること」が子どもたちの認知的・社会情緒的な発達を支えるうえで極めて重要であることが明らかになっているが、これは子どもたちの学びや発達に必要な支援に関する概念（例えばヴィゴツキーの「発達の最近接領域（ZPD）」など）を考えると、保育プロセス自体に教育的価値があることが理解できる。（参考文献：保育プロセスの質、イラム・シラージほか）

## 【保育プロセスの概論 2：保育プロセスと伸長される児童の能力 1】

保育プロセスの重要性を自覚した上で、自身の保育手法を向上させるために重要なことは、「保育手法（プロセス）によって伸長される児童の能力が何であるか」を理解することである。

保育プロセスによって高められる子どもの能力は以下の2つに大別できる。

- ・ 認知的な発達
- ・ 社会的、情緒的な発達

当社では前者を知育（自身との思索を深める教育）、後者を徳育（他者との思索を深める教育）の効果と同様と捉え、保育目標を達成する試み＝「保育プロセス」自体に大きな教育効果があることを意識して保育を行う



## 【保育プロセス概論 3：保育プロセスと知育（認知的な発達教育）】

・認知的な発達（自身との思索を深めること）**≒知育**は、以下の 2 つの接し方（質の高い保育プロセス）にて実現可能となる。

### 1. 言葉・コミュニケーションを支え、広げる保育手法

上記は以下の 4 つに分類できる。

- ・子ども同士の会話を支えること
- ・保育者が子どもの声を聴くこと、子どもが他者の言葉を聞くように支えること
- ・子どもの言葉の使用を保育者が支えること
- ・感受性豊かな応答

### 2. 学びと批判的思考を支える保育手法

上記は以下の 4 つに分類できる。

- ・好奇心と問題解決の支援
- ・お話・本・歌・言葉遊びを通じた「ともに考え、深め続けること」
- ・調べること・探求を通じた「ともに考え、深め続けること」
- ・概念発達と高次の思考の支援

## 【保育プロセス概論 4：保育プロセスと徳育（社会・情緒的な発達教育）】

・社会的、情緒的な発達＝他者への思索を深めること**≒徳育**は、以下の 2 つの接し方（プロセス）にて伸長可能となる。

### 1. 信頼、自身、自立の構築

上記は以下の 4 つに分類できる。

- ・自己制御と社会的発達を促す
- ・子どもの選択と自立した遊びの支援
- ・小グループ・個別の関り、保育者の位置取り

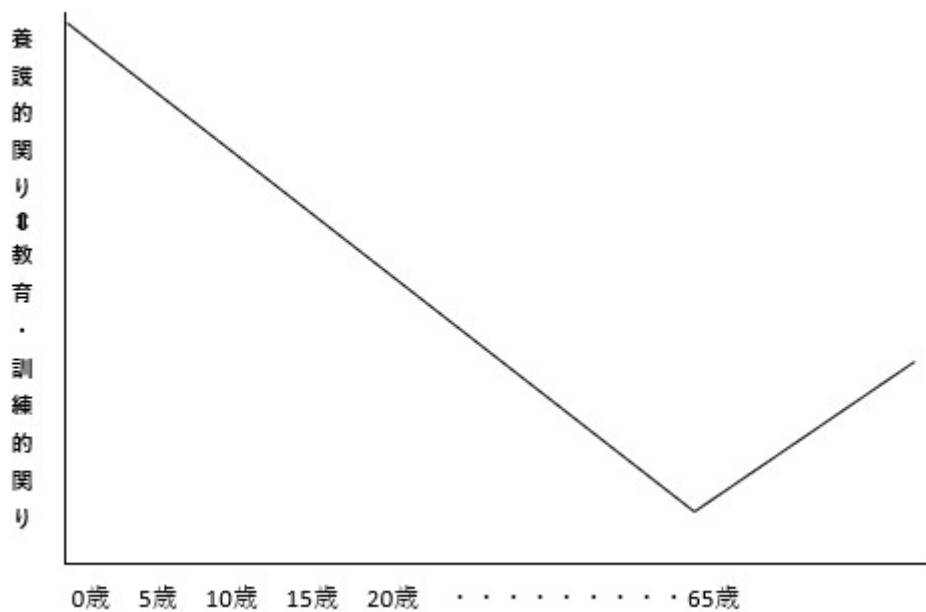
### 2. 社会的、情緒的な安定・安心

児童の社会情緒的な発達に質する接し方として、特段の手法は伴わないものの愛着の対象となる者として、保育プロセスの質を意識した関りの重要性を自覚する。

## 【保育プロセスの評価：プロセスを重視する理由と評価基準】

当社では、乳幼児期から保育所で養護を受ける児童にとって、その後の学童期や思春期、成人期以降の競争環境により、結果が重視される教育・訓練的集団生活以前の段階として周囲の大人から無償の愛を最も多く受け取る時期と捉え、保育目標のみならず「保育プロセス」を保育士の専門性と捉えて保育を行う。

また、保育プロセスの具体的評価基準に保育プロセスの質（イラム・シラージほか）を採用し、Luce（ルーチェ）と名付け、日々の保育に用いる。統括園長、園長は各園保育士が児童との関り（保育プロセス）において、これらの基準に準じた保育を行っているか、そのプロセスの質を意識した監督を行う。



※当社では保育目標に向かう過程（保育プロセス・保育手法）にて、日々丁寧な関りを児童と持つことこそが最も重要な保育士の専門性であると捉える

～コラム 3：先進国の保育目標と当社社員の成長戦略～

先進国には各国政府が子どもの学習と発達を向上させるために保育・幼児教育の質に関する基準と目標を確立することが求められている（OECD の報告書 2012）。

先進国で保育の質の向上に資するものとして、まず初めに提案されたのがアメリカの 1.「乳幼児の発達にふさわしい教育実践-21 世紀の乳幼児教育プログラムへの挑戦」である。これは保育を行為として捉え、細部に渡り望ましい保育実践（行為）が示されたものである。

次に保育環境に焦点をあてて保育の質を測った 2.「保育環境評価スケール」が示され、さらに保育のプロセスに焦点化した 3.「保育プロセスの質評価スケール」が提案された。

先進国での関心ごとである「保育の質の高さ」は、保育という行為、保育の環境、保育のプロセスという 3つの観点で評価されてきたという経緯がある。当社では保育環境のうち物理的環境は認可基準にてクリアされたとみなし、保育士による保育環境設定を、保育の成果が表れた保育行為（環境設定・手順）とともに「Libro」に記録する。

Libro は全園に共有され、相互に保育の質的向上のためのリソースとして活用するとともに、各園の保育の質は、Libro と併せ、Luce（ルーチェ：保育プロセスの質評価スケール）を用いて統括園長とともに総合的に評価する。

当社では上記の経緯により先進国に求められている保育の質を担保するために、研究的観点から重要なエッセンスを抽出し、手作りの保育環境にて、より良い保育実践を保育士一人ひとりが自ら発見することを通して全員が成長していく方法を採用。

1. 「乳幼児の発達にふさわしい教育実践-21 世紀の乳幼児教育プログラムへの挑戦」

S.プレデキャップ、C.コップル他

出版社：東洋館出版社（2000/12/1）発売日 2000/12/1 単行本：331 ページ

ISBN-10：4491016666 ISBN-13：978-4491016665



2. 「新・保育環境評価スケール 1」

テルマ ハームス他

出版社：法律文化社（2016/11/4）発売日 2016/11/4 単行本：95 ページ

ISBN-10：4589037971 ISBN-13：978-4589037978



3. 「保育プロセスの質評価スケール」-乳幼児期の「ともに考え、深め続けること」と「情緒的な安定・安心」を捉えるために

イラム・シラーズ他

出版社：赤石書店（2016/2/19）発売日 2016/2/19 単行本 120 ページ

ISBN-10：4750342335 ISBN-13：978-4750342337

